

コミュニケーション機器導入ステップ

- 現在の生活をみる
- 今後の生活を考える
- ニーズを把握する

- 心身機能の評価, 機器の操作性を確認する
- コミュニケーション機能面を把握する



01
目的の明確化

02
障害状況の把握

03
手段の検討

04
入手方法の検討

05
支援者の役割分担

06
フォローアップ

- 制度を活用するか検討する

- ニーズと手段をマッチングする
- 見立て, 試用する

- 関係機関との連携を図る
- 支援者の役割を明確化する

- フォローアップ体制を整備する
- 身体機能や操作性の変化をみる
- 新たなニーズを発掘する

01
目的の明確化

02
障害状況の把握

0
手段の

ステップ別の対応ポイント

01 目的の明確化

- 現在の生活を見る
現在の生活状況、経済面、家族・支援者の協力、仕事、社会参加等を把握することが重要になります。
- 今後の生活を考える
今後の療養環境、家族・支援者の協力状況、どのように生活したいかを把握します。
- ニーズを把握する
「誰と」「どんな場面で」「どんな手段で」コミュニケーションを取りたいかを確認します。

02 障害状況の把握

- 心身機能の評価、機器の操作性を確認する
当事者がどんな状態であるかを把握します。思いどおりに動かせる部位やスイッチ操作時に支障はないかを確認することが重要です。
- コミュニケーション機能面を把握する
現在のコミュニケーション方法を把握します。認知機能面の低下がある場合には、コミュニケーションへも影響があるため評価も必要になります。

03 手段の検討

- ニーズと手段をマッチングする
当事者のニーズがどんな手段であれば叶えられるかを検討します。
- 見立て、試用する
ニーズだけでなく、身体機能、機器やスイッチの操作能力、当事者を取り巻くすべての要因を考慮し見立てる必要があります。また、実際の機器を試用することが必要になります。

04 入手方法の検討

- 制度を活用するか検討する
コミュニケーション機器は、制度を活用し導入することができる場合があります。ただし、制度を活用するための対象要件が設けられていることがありますので、確認が必要です。

05 支援者の役割分担

- 関係機関との連携を図る
コミュニケーション支援は、当事者や家族のみならず、支援者も十分に理解・経験していないことが多いため、診断時点から多職種での密な連携が重要になります。
- 支援者の役割を明確化する
関係機関、職場の立場によって支援できる内容は異なります。お互いのできることを、専門性を理解し、役割を明確にすることが大切になります。

06 フォローアップ

- フォローアップ体制を整備する
導入したコミュニケーション手段を継続して使っていくためには、フォローアップが重要となります。
- 身体機能や操作性の変化をみる
スイッチ操作に不具合はないか、症状の進行による影響はないか等を確認します。スイッチの交換で使用できるのか、その他の問題があるのか見極め、適切な対応を行います。
- 新たなニーズを発掘する
生活環境の変化や当事者の意欲の変化を見逃さず、新たなニーズを発掘することが重要になります。